

第5回意見交換会の開催報告

1.日時：令和4年1月31日（月） 15時35分～16時40分

2.場所：天白区役所 講堂

3.参加者：天白区を住みよくする会

4.市出席者：緑政土木局企画経理課 可児主査（企画）

道路建設課 山中課長

蒲野主査（事業調整）

緑地事業課 小林緑地計画係長

5.参加者：4名

6.当日の次第

（1）開会のあいさつ

（2）現状報告

（3）弥富相生山線について

（4）入り込み交通対策について

（5）相生山緑地の基本計画検討会の報告

（6）閉会のあいさつ

7.主な質疑、意見等（○参加者、●名古屋市）

（弥富相生山線について）

○学術検証懇談会の概要資料【検証結果】に、マイナス効果として「ヒメボタルの生息環境の劣化」が挙げられているが、【主な意見】では、「道路を途中まで造ったことにより、ヒメボタルが激減したということはない」という矛盾した意見が出ている。どういうことか。

また、「決めたことを覆すこと自体が、計画を立てることの信頼性を低下させている。放置し続けたこと自体が損失」とある。その通りだと思うが、いつまでやっているのか。

●環境に配慮した工事を進めていたこともあり、ホタルの飛翔数は減っていないが、道路が開通した場合、車の通行によるヒメボタルへの影響の予測が困難であるため、マイナス効果として挙げられている。

○名古屋城の外堀でもヒメボタルは飛んでいるので、光害はさほど影響がないのではないか。「自然環境を守る」というと反論がしにくいかもしれないが、影響がないというデータを示せばよいのではないのか。

- 様々な価値観がある中で進めていくためには、歩み寄れる折衷案が現実的な解ではないかと学識者から意見があった。来年度は、少しでも歩み寄れるような案を検討する。
- 10 年止まっている。相容れないことがあるので、また止まってしまうのではないかな。
- 信頼を低下させてしまったことは申し訳ない。今回の学術検証で数字として事実を積み上げることができた。今後はこの事実をもとに、しっかりと判断してもらえらるような折衷案を検討していきたい。
- 折衷案の検討も目途を持って進めなければ、いつまでもこのままの状態が続くのではないのか。緑地内に竹林も拡大している。
- データの蓄積もできた。来年度以降、案をお示ししたい。
- 失われた 10 年だ。折衷案なんてとんでもない。弥富相生山線は、人と自然の共生で進めてきた。COP10 では人と自然の共生をテーマに、環境に配慮した道づくりということで、世界に発信をすべきと言ってきた。世界の開発がとどまることはないが、人と自然は共生すべき。これまでの資料や知恵を集積して、世界につなげていってほしい。
- 地域の方にも納得してもらえらるような案を作成したい。
- 昔いたのはヒメボタルではなくゲンジボタルだったと思うが、周囲の宅地開発が原因で緑地内にあった湧水が枯れていなくなった。道路はもっと早く開通できたはずだが、自然との共生のために時間をかけて造ってきており、環境が整っていることでヒメボタルが生息できている。
もし道路事業を廃止するのであれば橋脚は早く壊してほしい。夏場に若い人たちが集まっていると聞いたが、火災になるのが心配。
昔は緑地内の樹木は、燃料等で使われていたので高さが低く、ツツジが沢山咲き、鳥も多くいた。自然は放っておくとダメで手入れが必要。早く通してほしい。
- 山根学区交通対策協議会で話し合っ入り込み交通対策をやったが、学区の人達は不安に思っている。今後、集中豪雨や巨大地震なども想定される。地球環境か、人命か、どちらが大事か。ヒメボタルばかり言ってほしくない。市民団体の人たちも、地元の立場になって考えてほしい。